穂積重遠（ほづみしげとほ）　民法學者、法學博士。明治十六年四月十一日東京生れ、昭和二十六年七月二十九日歿（一八八三―一九五一）。父は穂積陳重。明治四十一年東京帝國大學法科大學獨法科卒。歐米留學後、大正五年同大教授。昭和十九年貴族院議員、翌年東宮大夫兼東宮侍從長、二十四年最高裁判所判事。

著書『法理學大綱』（大正六年八月五日岩波書店）、『親族法大意』（大正六年八月二十日、改訂版・大正十四年四月五日岩波書店）、『特別講演筆記錄・第二輯（民法講話・第一回　倫理學及び國民道德一斑）』（深作安文合著、大正十年六月二十二日陸軍士官學校將校集會所）、『婦人問題講演集・第十輯』（他有島武郎紀平正美合著・石川六郎合著、大正十二年三月二十三日民友社）、『南豫夏期大學講演集』（他三名合著・南豫文化協會編、大正十三年十一月二十五日愛媛・南豫文化協會）、『婚姻制度講話』（大正十四年六月二十六日文化生活研究會）、『相續法大意』（大正十五年十月十五日岩波書店）、『父を語る』（昭和四年四月八日私家版）、『穂積陳重八束進講錄』（穂積重威共編、昭和四年十一月二十五日岩波書店）、『法律五話』（昭和六年十一月一日社會教育協會「婦人講座」）、『穂積陳重遺文集』全四冊（編、昭和七年四月五日―九年九月二十日岩波書店）、『親族法』（昭和八年三月十五日岩波書店）、『結婚の話―婚姻は何時成り立つか』（昭和十一年十月一日社會教育協會「婦人講座」）、『日本の過去現在及び將來』（昭和十二年十一月三十日岩波書店）、『結婚訓』（昭和十六年十月二十日國民優生聯盟藏版、中央公論社）、『母を讃ふ』（他山内禎子平出英夫合著、昭和十七年七月十五日大日

本婦人會）、『獨逸戯劇日記』（昭和十七年十月三十日東寶書店）、『離縁状と縁切寺』（昭和十七年十二月二十日日本評論社「法學叢書」）、『日本の家庭』（昭和十八年三月六日大日本婦人會本部「大日本婦人會叢書」）、『戦後女性訓』（昭和二十年十一月十五日研究社）、『相續法』全三分冊（昭和二十一年十一月二十日―二十二年五月十日岩波書店）、『新婚論語』（昭和二十二年一月十日、再刊・二十一年六月二十九日社會教育教會）、『私たちの民法』（昭和二十二年九月十日社會教育協會）、『歌舞伎思出話』（昭和二十三年十月二十五日大河内書店）、『結婚讀本』（昭和二十五年十月十五日中央公論社）、『法律入門』（昭和二十七年八月二十五日宝文館「NHK教養大学」）等。